“日本軍人となる心構へ”　文協の座談會[[1]](#footnote-1)

朝人會では兵制施行に當り者立場から先づ自分らが人精神の眞をんだうへ來の國人となるべき半青年を正しくして行かうと、朝報道長將、同中をへて十日午後五時半からで『日本人となるの心へ』をく會をした

文人側から香山光郎、芳村香道、崔載瑞、鄭寅燮、李泰俊、青山青樹[[2]](#footnote-2)、金鍾漢、牧洋、白鐵、崔貞熙、毛允淑、寺田本社學藝部長ほか四十餘名が出席

將から國人となるのには何よりも先づ全な身體を作りあげたくましい神力をふことであると、兵となるの訣を説いて一同にい銘をへ、また中佐は半家人の人家としての心へと方を力説して者としての進むべき道を明かにし同七時半會を終へた。

1. 『京城日報』1942.6.11.朝刊 [↑](#footnote-ref-1)
2. 金東煥の創氏名「白山青樹」の誤植。 [↑](#footnote-ref-2)